様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ９ 月 ２７ 日現在

機関番号：１４５０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2010～2014
課題番号：２２５２０３６２

研究課題名（和文）東アジア「伝」文学の比較文学的調査・研究

研究課題名（英文）Studies of Comparative Literature about Biographical Narrative in East Asia

研究代表者
樋口　大祐（HIGUCHI, DAISUKE）

神戸大学・人文学研究科・准教授

研究者番号：９０３２４８８９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、東アジア各地域の歴史叙述や演義・軍記物語等の各テクストの中の「伝」文学的要素に注目することで、歴史叙述から演義や軍記物語の関係を明らかにすることをめざした。また、その探究を通して、「伝」文学のさまざまな現れ方（ジェンダーや王権・宗教・文字・地域社会・階級の差異等の変数に基づく）に関する知見を蓄積することも目的の一つとした。
5年の研究期間中、単著1冊、学術論文（共著を含む）9本、国際学会発表10本を行い、上記の目的を一定程度達成したと考えている。

研究成果の概要（英文）：In this study, I aimed at clarifying the relations of the war chronicle from a history description in East Asia by paying attention to a "biography" literal element in each text. In addition, through the research, I assumed that I accumulated knowledge about various way of appearing in "biography" literature (based on the variables such as differences of gender and sovereignty, religion, a letter, a community, the rank) objective one.
During the study period of five years, I perform one single work, treatise (including the joint work) nine, international presentation at the meeting ten and think that constant degree achieved the purpose mentioned above.

研究分野：日本文学、東アジア比較文学

キーワード：伝記文学　歴史叙述　東アジア　複数性　ジェンダー　　都市　記憶　鎮魂

１．研究開始当初の背景

東アジア漢文文化圏の各地域の文学史は、近代以降の国家的枠組みと虚構中心の文学観によって歪曲された形で再構成されており、そのことが現在の各地域相互の文化摩擦の原因の一つを為していると考えられる。

しかし、そのような現状を問い直す契機の一つとして、中国の正史を起源として各地域に伝播していった歴史叙述ジャンルと、転形期・動乱期の歴史を物語る演義・軍談小説・軍記物語等のジャンルを媒介・包摂するカテゴリーとして、いわゆる「伝」文学と言う概念を検討することが意義あることと考えられる。

２．研究の目的

本研究では、東アジア各地域の歴史叙述や演義・軍記物語等の各テクストの中から抽出し得る「伝」文学的要素に注目することで、歴史叙述から演義や軍記物語に至る諸ジャンルを貫通する当該要素の持つ多様な意義について考察することを主な目的とする。

また、その探究を通して、「伝」文学のさまざまな現れ方（ジェンダーや王権・宗教・文字・地域社会・階級の差異等の変数に基づく）に関する知見を蓄積することも目的の一つとしている。

３．研究の方法

日本のみならず、中国・韓国・台湾・ヴェトナム等の歴史叙述（従来文学として充分に認知されてこなかったテクスト群）を収集し、その上でそれぞれのテクストや関連の深い演義・軍記群から読み取れる「伝」文学的要素について多角的に検討した。

また、関心を近現代における戦争と伝記文学の関係に広げ、その伝統的枠組みとの共通性と差異についても考察を進めた。

４．研究成果

東アジア「伝」文学の上記変数ごとの諸特徴について、一定程度まで明らかにすることが出来たと考える。ただし、日本の「伝」文学に関しては相応の研究成果を発信することができたものの、韓国・台湾・ヴェトナム等に関しては、まだ充分論文化できていない。この部分は今後の課題である。

期間中、単著１冊、学術論文（共著を含む）９本、国際学会発表 10 本の成果を得た。

まず、単著『変貌する清盛－『平家物語』を書きかえる－』は、『平家物語』における平清盛についての伝記的記述を検討し、テクストが保守的な王法仏法相依論の立場から清盛の行為を「悪行」の連鎖として叙述しており、そのことが清盛に対する後世の人々のイメージを決定した一方、清盛死後の挿話の記述の中では、王法的視点とは異なる海港的視点から彼を評価する記述を残しており、清盛に対する再評価の出発点をなしていること、等を論じた。『平家物語』の平清盛の「伝」文学としての側面に光を当て、日本の歴史叙述において王法中心的視点が有してきた重要性と、それを解体しうるような記述の可能性の双方について考察した点で、これまでの日本の歴史叙述論にはないユニークな視点を提供し得たと考える。

論文（１）「『東国通鑑』と『本朝通鑑』」は、中国宋代の代表的な通史的歴史叙述である『資治通鑑』を模して編集された 17 世紀日本の『本朝通鑑』における平氏政権に関する叙述と 15 世紀朝鮮の『東国通鑑』における武人政権に関する叙述を比較し、儒教的価値観の濃淡や批判的叙述の水準等、多角的な分析を試みたものである。『東国通鑑』の分析は、主に政権を武力で奪取した武人達の「伝」文学的な位置づけを中心に考察を行っている。

論文（２）「敗北する検非違使」は、『平家物語』における検非違使に関する叙述を収集・分析し、同テクストが鎌倉幕府成立前夜の平安京都市文学としての一面を持っており、そこで 13 世紀以降没落する検非違使の存在が回顧的に語られていること、源義経に対する「判官びいき」も検非違使時代の彼に関する「伝」文学が出発点になっている可能性があることを指摘した。

論文（３）「16・17 世紀日本のキリシタン受容と転向」は、キリスト教を推奨する『妙貞問答』と同教に対する非難の書『破提宇子』の双方を執筆した不干ハビアンと言う人物とそのテクストについて、その伝記的事実との関係、「伝」文学としての内実を検討したものである。

論文（４）「中世日本と複数の公共圏」は、日本中世に古今集・伊勢物語・源氏物語・和漢朗詠集の読書を中核とする古典的公共圏が存在したとする先行研究の説に対して、日中の国境を越えて行われた禅宗文化を中核とする公共圏、幸若舞等のテクスト等に表現されている非農業民・漂泊の芸能民の公共圏、落書を生み出す都市的公共圏等の存在を示し、中世日本の文化が決して単一の公共圏に収斂されるものではなかったことを指摘したものである。それはまた、王権との距離を価値基準とする伝統的な「伝」文学とは異なる「伝」文学の多様な存在形態を示すものでもある。

論文（５）「一六世紀の歴史叙述と畿内港町」は、16 世紀後半に成立した『細川両家記』を扱い、このテクストが室町幕府の細川管領家の家記としての枠組みから出発しながら、細川家の家臣であった三好長慶とその弟たち四兄弟の「伝」文学的記述に焦点がずれて

いくことを考察している。
　論文（６）「鄭成功の「子どもたち」」は、宮崎滔天の小説『明治国姓爺』を扱い、主人公の政治思想の深化とその意味を追求した論文である。宮崎滔天の自伝的小説『三十三年之夢』との関係や、中国・台湾における「国姓爺」鄭成功の「伝」文学に関する知見を取り入れ、宮崎滔天自身がその伝統を踏まえた記述の在り方等をしていること等を考察しつつ論を進めている。
　論文（７）「十六世紀の海港都市「堺」の記述と表象」は、16 世紀の堺に関する諸言説を検討することを通して、統一権力と自治的都市・堺との関係の変化を跡づけたものである。また、1930 年代の「日本回帰」の風潮の中で、何人かの小説家や批評家が 16 世紀の日本に関心を示したことの意義にも言及している。西洋の思想の輸入によって形成されてきた日本近代文学史や思想史の中で、彼等が日本史に関心を示したことは、一見すると時代の風潮に妥協したように見えながら、その実深い抵抗の意志を示すものであると言える。そのことは彼等が長い年月をかけて 16 世紀の人物に関する「伝」文学を執筆していくことによって証明されている。本論はそのような近代作家による 16 世紀の人物を対象とする「伝」的文学の意義にも測量の錨をおろす意図を持っている。
　論文（８）「「琉球処分」の歴史叙述」は、1879 年に日本政府が琉球を併合したいわゆる「琉球処分」の過程を記述した喜舎場朝賢『琉球見聞録』の叙述を分析したものである。喜舎場朝賢は琉球処分後に成人した伊波普猷等よりも一世代前の人物であり、身分は高くないものの琉球国王に側近として仕えた経験も持っており、19 世紀琉球の精神史を考える上で最重要の人物の一人である。本論で論じられたのは喜舎場朝賢の「伝」文学的要素も含む当該テクストの多様な側面の一部であるが、今後とも継続的に研究していきたいと考える。
論文（９）「『太平記』の明治」は、中勘助の小説『銀の匙』および 1870 年代に成立した同時代の歴史叙述『近世太平記』『明治太平記』等を扱い、中勘助や歴史叙述の主人公たちの振舞いに『太平記』の楠正成伝承が与えた影響の大きさについて論じたものである。楠正成は逆賊でありながら江戸時代の演劇で最も人気のある英雄の一人であったが、幕末明治の志士達は彼に自らをなぞらえる形で自身の人生経路を作り上げようとしており、近代日本のナショナリズムの基底に楠正成の「伝」文学が存在していること、明治中期以降は徐々にその役割が西郷隆盛に代替されていくことを指摘した。
　その他、国際学会発表（４）（８）（10）等では、女性を語り手または主人公とする「伝」文学の特徴に関する考察を含む発表を行った。
以上みてきたように、本研究プロジェクトのテーマはある意味で時空間の差異を越えて無尽蔵に拡大し得る性格を持っている。そのことは当該テーマの普遍性を証明するものであると同時に、議論が拡散しやすいという負の傾向も併せ持っていることを意味している。そこで、本研究の後継プロジェクトである 2015 年度開始の科研費プロジェクト（挑戦的萌芽研究）においては、今プロジェクトの成果と知見を踏まえた上で時代を 1894～1896 年の「日清戦争」の時期に絞り、東アジア規模で行われた当該戦争に関する「伝」文学的要素の比較文学的調査・研究にテーマを集約して研究を継承することを目指している。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学術論文（共著を含む）〕（計９件）

１）小峯和明編『漢文文化圏の説話世界』（竹林舎、2010 年 4 月）所収、樋口大祐「『東国通鑑』と『本朝通鑑』」pp. 217-236

２）佐伯真一編『中世の軍記物語と歴史叙述』（竹林舎、2011 年 4 月）所収、樋口大祐「敗北する検非違使」pp. 146―170

３）樋口大祐「16・17 世紀日本のキリシタン受容と転向―『妙貞問答』を中心に―」（中国・対外経済貿易大学『日語学習与研究』2011 年 4 月号、pp. 34―42）

４）前田雅之編『もう一つの古典知』（勉誠出版、2012 年 7 月）所収、樋口大祐「中世日本と複数の公共圏」pp. 7-19

５）樋口大祐「一六世紀の歴史叙述と畿内港町」（『文学』2012 年 9・10 月号、pp. 164 - 177）

６）千本英史編『「偽」なるものの「射程」』（勉誠出版、2013 年 3 月）所収、樋口大祐「鄭成功の「子どもたち」」pp. 256-269

７）緒形康編『アジア・ディアスポラと植民地近代』（勉誠出版、2013 年 3 月）所収、樋口大

祐「十六世紀の海港都市「堺」の記憶と表象」pp. 3―28

8）島村幸一編『琉球―交叉する歴史と文化』（勉誠出版、2014年1月）所収、樋口大祐「「琉球処分」の歴史叙述―『琉球見聞録』をめぐって―」pp. 51―71

9）樋口大祐「『太平記』の明治―交差する情念と歴史―」（『アナホリッシュ国文学』8号、2015年7月刊行予定）

〔国際学会発表〕（計10件）

1）2010年10月5日
樋口大祐「『一国文学史』を問い直す」、『文学史の近代、古典の近代』国際会議（韓国、成均館大学、日本語）

2）2010年10月17日
樋口大祐「16・17 世紀日本のキリシタン受容と転向」、『世界における日本学研究の趨勢と連携』国際会議（中国、北京日本学研究センター）

3）2011年6月10日
樋口大祐「従「堺」看「世界」」、『東亜人物移動與文化的多様性』国際会議（台湾、国立台湾大学、中国語）

4）2013年6月15日
樋口大祐「日本文学における女性語りの系譜」、『女性・文学・仏教』国際会議（中国、北京日本学研究センター、日本語）

5）2013年12月22日
樋口大祐「『平家物語』から『ONE PIECE』へ―日本における「俠」的ヒーローの系譜―」、『神戸大学グローバル・リンク・フォーラム in ヴェトナム』国際会議（ヴェトナム、ハノイ国立大学、日本語）

6）2014年4月25日
樋口大祐「トラウマとしての満洲体験―三木卓『ほろびた国の旅』をめぐって―」、“The Social Structural Characteristics and Cultural Identities of the Seaport Cities”国際会議（韓国、韓国海洋大学、日本語）

7）2014年8月29日
樋口大祐“Sino-Japanese War and the Narrative of Trauma”、EAJS（European Association for Japanese Studies）第14回国際会議（Slovenia, University of Ljubljana, English）

8）2014年11月7日
樋口大祐「災害と文学―石牟礼道子・林京子を中心に―」、『災害と文学的想像力』国際会議（韓国、建国大学、日本語）

9）2015年3月7日
樋口大祐「日本近代の仏伝文学」、輔仁大学日本語文学系国際日本古典文学研究集会『文学と宗教の饗宴』（台湾、天主教輔仁大学、日本語）

10）2015年3月29日　樋口大祐
“Representation of Nomads in the Works of Michiko Ishimure”,ACLA(American Comparative Literature Association) 2015 Annual Meeting（Seattle, University of Washington , English）

〔図書〕（計1件）

1）樋口大祐『変貌する清盛―『平家物語』を読みかえる―』（吉川弘文館、2011年2月）、計222頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕
なし

６．研究組織

(1)研究代表者
樋口大祐（HIGUICHI, Daisuke）
神戸大学・大学院人文学研究科准教授
研究者番号：90324889

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし